

楽しく動物愛護学習

賀田小で県出前講座

県尾鷲保健所と県動物愛護管理センター（津市）の「動物愛護と食品衛生」出前教室が18日、尾鷲市賀田小学校（倉本佳明校長、41人）であり、1〜3年生16人がウサギの心音聴取体験などで動物

愛護の気持ちを高めた。

同センターの狂大病予防技術員3人と県尾鷲保健所衛生指導課の浜口太志さんから4人が同校に出向いた。

同センターの外川輝久さんがプロジェクト



犬の適性飼育や接し方などカードゲームで動物愛護を学ぶ児童（18日、賀田小学校で）

ーを使って犬の適正飼育や接し方について説明。野良犬に遭遇したときの危害防止で、①走らない（逃げない）②大声を出さない③目を見ないの3点を挙げ、「犬は動きを追う習性があり、犬の目をじっと見つめるのは犬が戦いのサインと受け取る」と注意を呼びかけた。

また、「触れるときはしゃがんで胸をなでると喜ぶ」「握った手を鼻の前に出し、ペロペロなめたら友達のサイン」などと犬の習性を紹介し、「犬も人間も心は同じ。犬の気持ちを尊重して触るよう」と話した。

児童たちは厚生労働省の体験型カードゲーム「わんわんカルテック」に取り組み、「犬は15年くらい長生きする」「狂大病が人や動物に感染すると100%死ぬ」など犬にまつわる10項目のアンケートにも回答した。

ウサギの心音聴取体験や手に付着した細菌の数値を計測するルミテスターを使った食品衛生チェックもあつた。2年生の近藤摩侖さんは「カードゲームが楽しかった。犬に関連する知識も深まり、勉強になりました」と話していた。

県尾鷲保健所の浜口さんは「カードゲームは子どもたちの反応がよかった。ゲーム感覚を取り入れることで少しでも動物に興味を持ち、動物愛護の気持ちを養ってもらえれば」と話していた。

教室終了後、同校にカードゲーム2セットを寄贈した。

012
1/20
動物愛護の日